
国際卓越研究大学の認定等に関する有識者会議 (アドバイザーボード) における審査の結果について (概要)

令和8年7月3日

国際卓越研究大学の認定等に関する有識者会議 (アドバイザーボード)

- 研究成果の潜在的な価値を探索し、社会展開につなげるシームレスな仕組みや、大学組織として出資法人や海外拠点も活用し、海外大学・海外ファンドとの連携体制や国際性を支える支援環境を構築し、世界レベルのスタートアップ企業創出につなげる意欲的な計画は評価できる。また、新たな研究組織体制である「デパートメント制」の実施においても、成果創出までに時間がかかるもののユニークで価値のある潜在的な研究を中長期的な視点で評価するなど、多様な視点での研究評価軸を設計している点は評価できる。
- 医学系研究科や附置研究所も含めた全学で、閉鎖的な部局小講座制から、研究領域を基本単位とするオープンなデパートメント制へ移行する意欲的な計画であり、学内合意がとれている点も評価できる。一方で、各デパートメントの研究力強化戦略等の検討の基となる京大ビジョン（全学計画）の策定や全学でのデパートメント制への移行は途上である。
- 歴史や伝統のある大規模な大学として、一定の改革の困難性がある中で、今回極めて挑戦的な改革構想を掲げていることを高く評価したい。
- 1期10年で実施する既存組織の変革においては、更なるスピード感及び、各デパートメントの構想・戦略等の明確化が必要である。また、長期的な変革を成し遂げるために、変革への取組を持続的・継続的に推進することができる体制の構築を期待する。
- 下線の事項は体制強化計画の開始に当たり重要な確認事項であり、これらについて、認定候補大学としてアドバイザリーボードとの対話を踏まえながら最長で1年間計画を磨き上げ、対応状況をアドバイザリーボードとして確認した上で、認定・認可の手続へと移行するべきである。その際、対応状況が不十分であった場合は、助成額を減額して計画を開始することも検討の必要がある。



申請概要

新たな研究組織体制（デパートメント制）の導入を核として「研究改革」「教育改革」「成長戦略」「経営改革」を戦略的に実行し、大学を変革する。創立以来堅持してきた自由の学風のもとで、社会を変革する価値とグローバルに活躍する高度人材を生み出し続け、世界から多様な研究人材が集う国際的な知の拠点を目指す。

2. 京都大学 国際卓越研究大学研究等体制強化計画 第二次案 (概要)

～世界から多様な研究人材が集う知の拠点へ～

Mission (京都大学の基本理念)

創立以来築いてきた自由の学風を継承し、発展させつつ、多様な課題の解決に挑戦し、地球社会の調和ある共存に貢献する

Vision (京都大学の全学ビジョン)

- 自由で独創的な研究による知の創生によって、社会の多様な課題解決と社会を変革するイノベーションの創出に貢献
- 世界のアカデミアを牽引する優れた研究者とグローバルに活躍する高度な専門能力を有する人材を養成・輩出
- 国際社会に開かれた総合大学として、世界から多様な人材が集う国際的な知の拠点(ハブ)を形成

Policy (研究改革推進指針)

- 「自由で独創的な研究による知の創生」のための京都大学が重視する5つの学術的価値
- 「社会の多様な課題解決と社会を変革するイノベーションの創出」のための3つのベクトル
- 戦略を駆動させる2つのシステムの構築

Commitments | デパートメント制の導入を核とした大学改革

研究改革	<ul style="list-style-type: none"> ● 学術領域を基盤とした「デパートメント制」の導入 ● 「分野横断・新学術創成」システムの構築 ● 京都大学独自の5つの評価軸(COMON)の導入 ● 研究力強化に関する重要事項の審議・学術的助言機関「研究諮問委員会」による研究評価の実施 ● 本学独自の「ポスドク」「フェロー」制度の新設等による次世代の高度研究人材の獲得・育成(若手PI 2倍以上) 	教育改革 <ul style="list-style-type: none"> ● デパートメントを基礎にした学位プログラム制へ移行 ● 大学院規模の拡大(博士学位取得者の3倍増)
	成長戦略 <ul style="list-style-type: none"> ● 寄付やスタートアップへの投資を中心とした外部資金3倍増計画 ● 投資先スタートアップの経済効果累計3兆200億円 	
	経営改革 <ul style="list-style-type: none"> ● デパートメントオフィスの設置(研究エフォート55%以上の実現) ● 大学経営人材の育成・獲得(HRSOの設置) 	

京都大学独自の5つの評価軸 (COMON) の導入

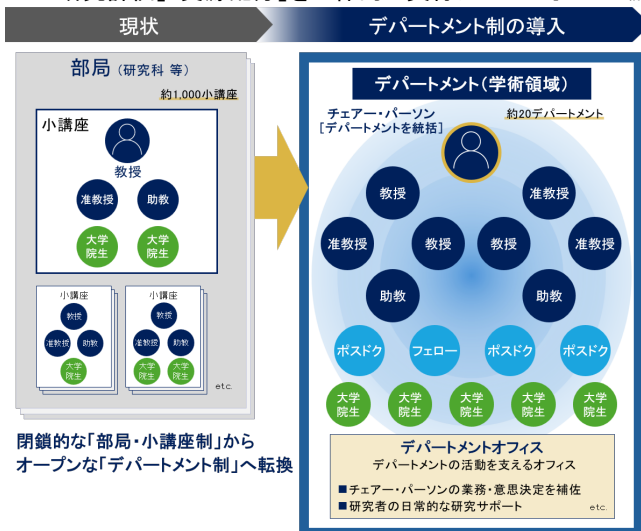
- 「学術領域の特性」と「本学のミッション」に配慮した京都大学独自の評価軸を導入

創造的先進性 (Originality)	新たな分野の開拓や、国際的な卓越性が認められる研究を評価する軸
波及性 (Outreach Impact)	異なる学術分野への展開や社会的・経済的価値の創出などのインパクトをもたらす研究を評価する軸
汲集性 (Network Centrality)	学術ネットワークの中心を築き、社会の人々と学術を結びつける求心性を持つ研究を評価する軸
伏流性 (Maturing Excellence)	現状では成果が可視化されていない潜在的でユニークな研究を中長期的な視点で評価する軸
積層性 (Cumulative Foundation)	学術知の蓄積により、知を確実に継承していく研究を評価する軸

2つのシステムの駆動

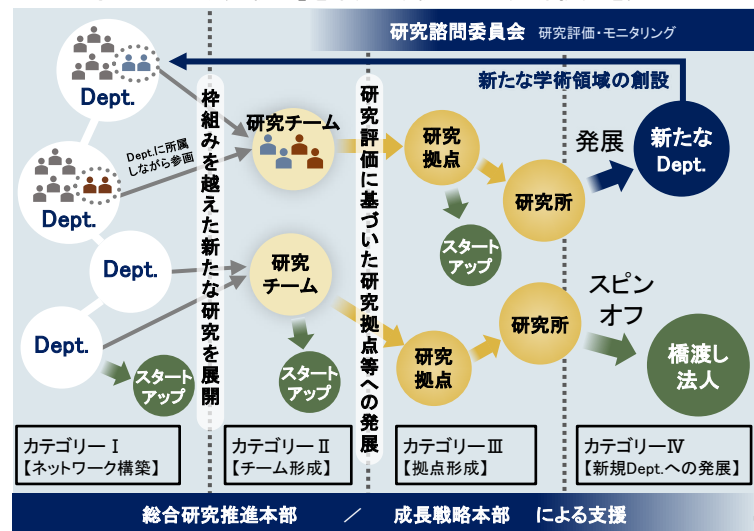
学術領域を基盤とした「デパートメント制」の導入

- デパートメントごとに「将来構想・研究力強化戦略の策定」「研究評価」「資源配分」を一体的に実行(「デパートメント」システムの構築)



「分野横断・新学術創成」システムの構築

- 研究改革推進指針(3つのベクトル)に沿って、大学の「重点研究戦略」を策定し、戦略的な資源投資を実行



3. 京都大学に対する審査について（概要）

【総論】

- ✓ 令和7年12月に重要な確認事項とした①京大ビジョン（全学計画）の策定と、②全学でのデパートメント制への移行について、いずれの事項についても計画の精査や具体化が図られており、国際卓越研究大学の認定及び体制強化計画の認可の水準を満たし得ると判断する。

【検討状況及び所見】

重要な確認事項	京都大学における主な検討状況（✓）とアドバイザリーボードの主な所見/今後の期待（→）
①京大ビジョン（全学計画）の策定	<ul style="list-style-type: none">✓ その役割を担うものとして、国際卓越研究大学としての京都大学の各デパートメントの研究力強化戦略等の検討の基となる「研究改革推進指針」の策定が行われた。また、研究改革推進指針においては、「自由で独創的な研究による知の創生」のための京都大学が重視する5つの学術的価値と、「社会の多角的な課題解決と社会を変革するイノベーションの創出」のための3つのベクトルを明らかにするとともに、戦略を駆動させる2つのシステムとして、デパートメントシステムと分野横断・新学術創成システムの構築が示された。さらに、本指針を基として、研究戦略や研究を進めるための資源配分や評価の方法が設定された。→ 国際卓越研究大学の認定及び体制強化計画の認可後は、本指針に基づいた各種活動を着実に実施するとともに、更なる実効性の向上を図りながら進めていくことを期待する。
②全学でのデパートメント制への移行	<ul style="list-style-type: none">✓ これまでの約40の部局数から約20のデパートメントへ再編が行われる計画案へ、各部局との合意形成を図った上で修正され、既に設置に合意したデパートメントが複数存在していることが確認された。また、デパートメント制への移行のスケジュールについて、2027年度末までに全てのデパートメント構成を決定し、2029年4月から全学でのデパートメント制の完全実施を行うことが示された。また、デパートメントを総括するチェア・パーソン的人物像や役割や選定基準の具体化が図られた。→ 国際卓越研究大学の認定及び体制強化計画の認可後は、着実なデパートメント制への移行と各デパートメントにおける研究力の強化を実現していくことを期待する。

【マイルストーン評価と厳格なモニタリング】

- ✓ デパートメント制への移行については、今回の体制強化計画における中核的な事項であり、上述の下線のスケジュールが示されたことから、体制強化計画の開始以降に進捗を確認すべき事項として、通常のマイルストーン評価に加え、体制強化計画の開始から2年度内及び3年度内に、アドバイザリーボードとして厳格なモニタリング（評価結果を踏まえ、支援継続の可否や支援額の見直しの判断もあり得る。）や助言を実施することで、計画の確実な実行を促すことが適当である。